

精神障害者にも対応した地域包括ケアシステムの構築を目指した精神保健看護学カリキュラムの改編

○守村 洋、渋谷 友紀

札幌市立大学 看護学部

我が国の精神保健福祉施策では、精神障害の有無や程度にかかわらず、誰もが安心して自分らしく暮らすことができるよう、医療、障害福祉・介護、住まい、社会参加（就労など）、地域の助け合い、普及啓発（教育など）が包括的に確保された精神障害者にも対応した地域包括ケアシステム（以下、“にも包括”）の構築を目指すことが求められている。

本学は開学以来、精神看護学臨地実習（2単位90時間、2週間）においては、精神科病院において1人の患者を受け持ち、看護計画を立案し看護実践をしていた。その後、精神保健医療福祉の改革ビジョンによる「入院医療から地域生活へ」の流れを受け、社会資源施設での実習も取り入れるように徐々にシフトしていった。2024年度、精神看護学領域は、精神保健看護学領域へと改称し、看護ケアを実践する実習から“にも包括”を考えられる実習へとカリキュラムへ改編した。本ワークショップではそのカリキュラムを紹介する。

本学部における精神保健看護学のカリキュラムは、2年前期から3年前期へかけ、精神保健看護学概論、精神保健看護援助論、精神保健看護技術論、精神保健看護学臨地実習に構成されている。

【精神保健看護学概論】（2年前期）では、メンタルヘルスの観点から、こころの健康、健康問題、障害について広く教授する。個人のこころと精神の機能、生活の場である家庭や職場などの集団におけるこころの問題、そして社会精神医学的側面として、精神保健の課題について教授する。さらに、精神障害者の人権について考え、それを擁護する関係法規を教授する。

【精神保健看護援助論】（2年後期）では、精神障害の病態像や治療、生活障害との関連についての理解

を深め、社会制度や環境を含めた全人的理解の深化と、精神看護で活用される理論や概念を活用しながら精神障害者のリハビリや自立、家族の支援に必要な看護援助の基本を教授する。また、精神的健康の保持・増進および精神健康障害の予防と健康回復における看護の役割について教授する。特に臨地実習につながるよう、実習施設のスタッフ（精神科医、民間団体職員、訪問看護、家族会）をゲストスピーカーとして招聘し、学生に現場の臨場感が伝わるように工夫した。

【精神保健看護技術論】（3年前期）では、精神保健看護援助論で学んだ理論を基盤に、精神の健康上の問題を抱える対象者への援助技術を教授する。事例を用いた看護過程の展開を通じて精神看護の考え方を深め、映像教材『シミュレーションで身につける精神看護技術』（医学映像教育センター、2024）を活用して基礎的な関わり技術を学ぶ。さらに、模擬患者や当事者参加型のシミュレーション教育により実践力を高める。

【精神保健看護学臨地実習】（3年前期）では、実習施設における体験を通して、地域包括ケアの実践を具体的に学ぶことを目指す。最終的には、学生が「SCU-にも包括Map」を作成し、地域資源や支援のネットワークを視覚化することで、精神保健看護の全体像を深く理解することを目的とする。

各大学のカリキュラムについては、さまざまな工夫がされていると思われます。学会員の皆さまと情報交換し、より良い精神保健看護学教育を追求するため、語り合いたいと考えております。

なお、本ワークショップは教育方法に関するテーマのため、特段の倫理的配慮は該当しない。